

## 小児看護学実習／3学年

### 1. 実習目的

小児の成長発達についての理解を深め、健康障害や入院が小児と家族におよぼす影響を理解し、病児や保護者に対する適切な看護と指導を行える能力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 小児各期の生理および成長発達の過程を理解する。
- 2) 小児の成長発達に影響する諸因子を理解し、発達段階に応じた援助ができる能力を養う。
- 3) 病児の疾患、発達段階および個別性をふまえて看護を計画的に実践し、評価する能力を養う。
- 4) 疾病が小児におよぼす身体的、社会的、精神的影響を理解し、保護者の協力や社会問題を認識して看護にあたる重要性を学ぶ。
- 5) 小児及び保護者に適切な保健指導を実施し、社会資源の活用について学ぶ。
- 6) 3歳児健康診査の実際を見学し、成長発達段階及び健診の必要性を学ぶ。

### 3. 実習内容

	一般目標	行動目標	実習内容
小 児 科 病 棟	<p>1. 小児期にある児の特徴をふまえ、対象を理解する。 (実習目標1、2)</p> <p>2. 受け持ち患児の特徴・健康障害の状況を理解し、問題解決に向けた看護計画を立案できる。 (実習目標1、2、3)</p>	<p>1) 小児各期の特徴をふまえ、対象の発達段階を述べるができる。</p> <p>2) 入院が小児や家族におよぼす影響を述べるができる。</p> <p>1) 受け持ち患児の成長・発達段階、疾病の病態生理、症状、検査、治療・処置について述べるができる。</p> <p>2) 受け持ち患児の基本的欲求の充足状況について述べるができる。</p> <p>3) 受け持ち患児の日常生活、基本的生活習慣の自立状況について説明することができる。</p>	<p>(1)受け持ち患児の成長発達段階の観察と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形態的発達 体温・身長・頭囲・胸囲・身体各部の割合・生歯・骨の発達・身体発育の評価</li> <li>・機能的発達 呼吸・循環・血液・体温・消化・水分と電解質・神経系・免疫</li> <li>・精神運動機能発達 感覚・運動・情緒・社会性・知的機能の発達 言語・精神発達の評価</li> </ul> <p>(1)生育歴、家庭環境等 (2)乳児期の入院に伴う問題 (3)幼児期の入院に伴う問題 (4)学童期・思春期の入院に伴う問題 (5)小児の入院に伴う家族の問題 (6)小児、家族の疾患についての理解状況</p> <p>(1)成長・発達段階 (2)病態生理 (3)健康障害の段階 (4)治療方針・治療内容</p> <p>(1)基本的ニードの観察 (2)基本的欲求の充足、未充足</p> <p>(1)入院前、入院後の生活 (2)食事、排泄、清潔、睡眠、衣生活等の自立状況 (3)家族の教育方針</p>

小 児 科 病 棟	<p>3. 小児の成長・発達段階に応じた日常生活の援助について理解する。 (実習目標 2、3、4)</p>	<p>4) 受け持ち患児の状態や症状にあわせて、健康回復への適切な援助ができる。</p> <p>5) 受け持ち患児の家族に対して適切な援助が考えられ、一部実践できる。</p> <p>1) 小児に適した環境を整えることができる。</p> <p>2) 発達段階に応じた食事の援助ができる。</p> <p>3) 排泄の援助ができる。</p> <p>4) 睡眠の援助ができる。</p> <p>5) 清潔と衣生活の援助ができる。</p> <p>6) 移動及び活動の援助ができる。</p> <p>7) 患児に適した遊び(学習)の援助ができる。</p> <p>8) レクリエーションの企画・実施・評価ができる。</p>	<p>(1)健康段階(急性期、慢性期、回復期、終末期)</p> <p>(2)成長発達段階に応じた援助(情報の解釈・分析、問題点の明確化、計画立案、実施、評価・修正)</p> <p>(1)入院に伴う問題への対応</p> <p>(2)保健指導</p> <p>(1)病棟の構造・設備、規則、日課の把握</p> <p>(2)ベッドの種類とリネン</p> <p>(3)温度、湿度、照明他</p> <p>(4)危険物への配慮</p> <p>(1)食事の環境</p> <p>(2)必要な栄養素、カロリー等</p> <p>(3)食事摂取状況・食事量の観察</p> <p>(4)必要時食事介助</p> <p>(5)食習慣形成への援助</p> <p>(6)食事制限のある小児への援助</p> <p>(1)排泄状況の観察</p> <p>(2)排泄習慣形成への援助</p> <p>(3)おむつ使用時のおむつ交換</p> <p>(1)睡眠状態の観察</p> <p>(2)睡眠環境の整え方</p> <p>(3)睡眠習慣(入眠時のくせ等)</p> <p>(1)全身の観察</p> <p>(2)患児に適した方法の選択</p> <p>(3)清潔習慣形成への援助</p> <p>(4)適切な衣服の選択</p> <p>(5)衣服の着脱の観察</p> <p>(1)成長・発達段階に見合った移動の方法</p> <p>(2)成長発達段階・健康段階にあった活動への援助</p> <p>(1)成長発達段階に応じた遊びの選択</p> <p>(2)健康段階に応じた遊びの工夫</p> <p>(3)成長発達段階に応じた学習指導</p> <p>(1)レクリエーション企画、実施、評価</p>
	<p>4. 病児の援助に必要な小児看護の基礎的技術を身につける。</p>	<p>1) 小児看護に必要な基本技術、診療時の援助技術ができる。</p>	<p>(1)乳児、幼児、学童のバイタルサイン</p> <p>(2)乳児、幼児の身体計測</p> <p>(3)診察の介助</p> <p>(4)治療・検査時の援助</p>

小 児 科 病 棟	(実習目標2)		
	5. 小児の安全を守るために必要な援助を理解する。 (実習目標2)	1) 小児の発達段階に応じて起こり得る事故を予測でき、事故を防ぐ援助ができる。	(1)小児の発達段階と起こりやすい事故の理解 (2)事故の予防
	6. 小児の継続看護における看護者の役割を理解する。 (実習目標4、5)	1) 受け持ち患児を通して小児の継続看護の必要性が述べることができる。  2) 小児の継続看護に関わるメンバーと、看護者の役割、連携の方法が述べることができる。	(1)小児における継続看護の意義  (1)小児の継続看護に関わるメンバーと看護者の役割 (2)社会資源の活用方法
小 児 科 外 来	1. 外来を訪れる小児と家族の心理について理解し、小児と家族の看護について学ぶ。 (実習目標1、2)	1) 健康障害をもつ小児の家族の心理を理解し、必要な援助ができる。	(1)親と子の絆 (2)待合室での親と子に対する看護 (3)継続看護
	2. 小児の外来診察時の看護の役割を学ぶ。 (実習目標1、2、5)	1) 小児の安全を守るために必要な環境を整えることができる。  2) 小児看護に必要な基本技術や診察時の援助ができる。  3) 乳児健診の必要性が理解でき、介助ができる。	(1)小児の発達段階と起こりやすい事故の予防 (2)感染の予防 (3)乳児・幼児の身体計測 (4)乳児・幼児のバイタルサイン (5)診察時の介助 (6)乳児健診 ・頭囲・胸囲・身長・体重測定 ・カウプ指数の計測 ・K <sub>2</sub> シロップの与薬と指導 ・反射の観察、保健相談・指導
	3. 外来で処置を受ける小児の看護について理解する。 (実習目標1、2、4)	1) 処置時の小児・家族への看護の必要性について述べることができる。  2) 予防接種の時期・内容について理解でき、小児・家族への援助と看護者への介助ができる	(1)点滴・注射時の親への援助 (2)点滴・注射・採血時の固定方法 (3)処置・検査時の援助 ・吸入・浣腸・坐薬挿入等 ・E E G・C T・E C G・心エコー ・X線撮影  (1)予防接種 ・予防接種の種類と実施方法 ・予防接種の一般的注意事項 ・予防接種の対象年齢
3 歳 児 健	1. 3歳児健康診査の実際を見学し、成長発達段階及び健診の必要性を学ぶ。 (実習目標6)	1) 3歳児健康診査の必要性が理解できる。  2) 3歳児における成長発達段階について述べることができる。	(1)健診の手続き方法 (2)問診の実際 (3)身体計測 (4)医師・歯科医師・歯科衛生士・看護師・保健師・栄養士による保健指導の実際 ・歯科診察、歯科相談

康 診 査		3) 家族に対する保健指導の必要性が理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科診察</li> <li>・育児相談</li> <li>・栄養相談</li> </ul> (5) 社会資源の活用 (6) ミーティング参加
-------------	--	--------------------------	--

#### 4. 実習時間（単位）

総時間 90 時間（2 単位）

- 1) 臨地実習（病棟・外来）63 時間
- 2) 3 歳児健康診査（釧路市こども保健部健康推進課）6 時間
- 3) 学内実習 21 時間（0.46 単位）

##### （1）学びの共有と知識の確認

目的：臨地での学びを深める。

内容：①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向性について話し合い翌日の援助につなげる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を進める。また、技術練習の機会とする。

③教員の指導のもと、看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。

##### （2）実習施設についての学習

目的：3 歳児健康診査の概要を学び、3 歳児の成長発達段階や保健師の役割について知る。

内容：施設オリエンテーションの実施と 3 歳児健康診査の手順についての説明を行う。

※小児科病棟実習 9 日間のなかで小児科外来実習を経験する。

日時については決まっていないが、病棟の状況に合わせ流動的に外来実習を行う。

※3 歳児健康診査は実習施設の日程の都合上、病棟実習期間中とは限らない。

#### 実習期間及び時間

	9:00～9:45	9:45～10:30	10:30～11:15	11:15～12:00	12:00～12:45	13:45～14:30	14:30～15:15	15:15～16:00	16:00～16:45	16:45～17:30	
1 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
2 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
3 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
4 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
5 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
6 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
7 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
8 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
9 日目	臨地実習				臨地実習		学内実習				
3歳児健康診査	学内実習				臨地実習						

## 5. 実習方法

- 1) 患児一人を受け持ち、看護計画を立案し、患児に必要な援助を実践する。
- 2) 小児看護に必要な基本技術・診療時の援助技術を経験する。
- 3) 入院患児を対象にレクリエーションを計画し実施・評価する。
  - (1) 企画書は病棟実習前までに担当教員とコンタクトをとりながら指導を受ける。
  - (2) 企画書は病棟実習初日に指導者へ提出する。
  - (3) 指導者の確認を受け、レクリエーション日が決定したら、レクリエーション当日の朝、参加患児へ招待状を配布する。(参加患児は指導者へ確認すること)
  - (4) レクリエーション終了後は、レクリエーションの評価をし、担当教員へ提出する。
- 4) 実習中の服装
  - (1) ユニフォームの上にエプロンを着用する。ネーム(ひらがな)をフェルト等で作成し、エプロンの胸当てに縫い付ける。
- 5) 3歳児健康診査
  - (1) 実習1週間前に担当教員へ実習ノートを提出する。
  - (2) 健康診査の実際を見学し、カンファレンスで見学実習での学びを発表する。
  - (3) 服装はパンツスーツとし、エプロンを着用し、作成したネームを縫い付ける。

## 6. 実習記録

- 1) 小児科病棟
  - (1) 実習記録の様式を参照し、実習ノートを作成する。
  - (2) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、実習終了日の翌日に提出とする。
- 2) 小児科外来
  - (1) 実習記録は援助したことを経時で記録する。
- 3) 3歳児健康診査
  - (1) 実習記録は見学したことを経時で記録する。
  - (2) 実習終了翌日に、実習記録と見学実習を終えての学びをノートに整理し担当教員へ提出する。

## 7. 実習評価

小児看護学実習評価表を用いて評価する。

# 小児看護学実習 評価表

第 期生 学籍番号 学生氏名

実習場所

実習期間 年 月 日 ~ 年 月 日

項目	評価対象	評価基準 5点	評価基準 4点	評価基準 3点	評価基準 2~0点	点数	
1	小児の特性	実習ノート 小児各期の成長発達段階について情報を整理し、記載している。 □形態的発達(身体各部の評価 身体発育の評価) □機能的発達(呼吸 循環 血液 体温 消化 水分と電解質 神経系 免疫) □精神運動機能発達(感覚・運動・情緒・社会性・知的機能の発達 言語・精神発達の評価)	小児各期の成長発達段階について記載形態的発達・機能的発達・精神運動機能発達の情報のうち不十分な項目が1項目ある。	小児の発達段階について形態的発達・機能的発達・精神運動機能発達の情報のうち不十分な項目が2項目ある。	小児の発達段階についての情報を助言しても記載できない。	0	
			入院が小児や家族に及ぼす影響について記載しているが、不十分な項目が1項目ある	入院が小児や家族に及ぼす影響について記載しているが、不十分な項目が2項目ある	入院が小児や家族に及ぼす影響について記載しているが、不十分な項目が3項目以上ある。	0	
			受持患者についての情報収集を行い、受持患児記録Ⅳの全ての項目を記載できる	受持患児記録Ⅳを記載しているが、不十分な項目が1項目ある	受持患児記録Ⅳを記載しているが、不十分な項目が2~3項目ある	1	
			ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて全ての項目における情報を記載できている。また、今後予測されることも踏まえた情報収集や分析ができている	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて全ての項目における情報を概ね記載することができる	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて情報を概ね記載できているが、不足な項目が複数ある	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて情報を記載することができていない	2
			収集したニーズの情報から、全ての項目における充足・未充足を根拠を持って概ねアセスメントすることができる	収集したニーズの情報から、その患者にとって主要な項目(生命・予後に関わる、または最も苦痛となっていることなど)における充足・未充足を根拠を持って概ねアセスメントすることができる	収集したニーズの情報から、その患者に主要な項目(生命・予後に関わる、または最も苦痛となっていることなど)における充足・未充足を判定できるが、分析・考察に不足がある	ほとんどの項目で収集したニーズの情報を根拠を持って分析・考察できていない	2
			対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理している □病態生理の把握 □症状・状態の観察 □治療方針・治療内容 □検査データ □検査データの推移	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが不十分な項目が1~2項目ある	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが不十分な項目が3項目ある	助言があっても、対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理できない	2
7	看護計画立案	全体関連図 関連図において必要な情報が記載でき、関連付けや個別性に合わせて情報をタイムリーに追加することができる □身体的情報 □精神的情報 □社会的情報 □ADL・セルフケア情報 □家族の情報 □疾患・治療に関する情報 □小児の発達段階・発育状況 □児と家族の心理状態	時間を要すが関連図において必要な情報の記載があり、看護計画に反映させることができる	関連図において必要な情報を記載しているが、不十分な項目が1~3項目ある	関連図において必要な情報を記載しているが不十分な項目が4項目以上ある	2	
			専門的知識をもとに、看護として解決していくべき問題を適切に抽出し、優先順位を選定することができる	解決していくべき問題の抽出および優先順位の選定については、助言を受けてできる		解決していくべき問題の抽出または優先順位の選定については、助言を受けてもできない	0
			小児の病状や日常生活行動レベルを把握し、個別性を考慮した看護目標が設定できる	助言を受けて、小児の病状や日常生活行動レベルを把握し、個別性を考慮した看護目標の設定ができる	かなりの助言を受けて、小児の病状や日常生活行動レベルを把握し、個別性を考慮した看護目標の設定ができる	小児の病状や日常生活行動レベルの把握、個別性を考慮した看護目標がかなりの助言をうけても設定できない。	1
			小児や家族の心理をふまえ、健康状態や成長発達段階に応じた援助計画の立案ができる	助言を受けて、小児や家族の心理をふまえ、健康状態や成長発達段階に応じた援助計画立案ができる	かなりの助言を受けて、小児や家族の心理をふまえ、健康状態や成長発達段階に応じた援助計画立案ができる	小児や家族の心理をとらえられず、健康状態や成長発達段階に応じた援助計画をかなりの助言を受けても立案できない。	1
			解決策は原則をふまえ、具体的な援助内容を5W1Hで記載している □安全管理 □感染予防 □安楽確保	5W1Hにはなっていないが、解決策は具体的に記載している	かなりの助言を受けて、解決策を具体的に記載している	かなりの助言を受けても、解決策は具体的に記載できない	1
			行動計画に基づき患者の状況に合わせながら実践できる <行動計画に必要な内容> □患者の生活・治療・処置を考慮したタイムスケジュール □具体的な行動内容	行動計画に基づき実践できる	行動計画に基づき実践できていないことがある	必要な援助が行動計画に記載されていず、実践できていないことがある	1
13	実施・評価	実践 以下の項目のすべてにおいて看護実践できている □患者の反応を見ながら言葉かけしている □個別性に応じた工夫ができる □プライバシーの配慮ができる □時間・効率性を考えて行動できる □患者に合わせた説明ができる □患者家族の話をよく聞いている □自分の考えや思いを相手にわかりやすく伝えている	左記項目の看護実践の中で不十分な箇所が1~2項目ある	左記項目の看護実践の中で不十分な箇所が3~4項目ある	左記項目の看護実践の中で不十分な箇所が5項目以上ある	0	
			援助した結果の記載および患者の反応や状態における考察が以下の項目全てにおいて記載できている □学習したことが反映されている □客観的な情報に基づいて判断している □患者の状態を正しく理解し考察している □予測性を持った考察ができている □具体的にわかりやすく記載できている	援助した結果の記載および患者の反応や状態における考察で不十分な箇所が1~2項目ある。	援助した結果の記載および患者の反応や状態における考察で不十分な箇所が3~4項目ある。	援助した結果の記載および患者の反応や状態における考察で不十分な箇所が5項目ある。	1
			小児にとってのレクリエーションの意義・必要性を理解し、対象年齢に合わせたレクリエーションを計画通りに企画・実施ができる □提出期限 □内容 □実施	小児にとってのレクリエーションの意義・必要性を理解し、対象年齢に合わせた企画・実施ができるが、不十分な項目が1項目ある		小児にとってのレクリエーションの意義・必要性を理解し、対象年齢に合わせた企画・実施ができるが、不十分な項目が2項目以上ある	0
16	態度	行動 どの様な状況でも対象の人格や生活史を尊重した態度で、接することができる	多くの場面において、対象の人格や生活史を尊重した態度で、接することができる		対象の人格や生活史を尊重した態度で、接することができない	0	
			看護師や教員に報告・相談をしている □援助前後 □適切なタイミング □患者の変化 □自己の所在	報告・連絡・相談において不十分な項目が1項目ある	報告・連絡・相談において不十分な項目が2項目ある	報告・連絡・相談が不十分な項目が3項目以上ある	1
			・自己の課題解決に向け実習に臨み、学習を進めている ・わからないところはすぐに調べたり質問し、早期に解決しようとしている (アドバイスの赤ペンに対し、調べて返答している)	・自己の課題を理解し、学習を進めている ・わからないところを調べたり質問し、解決しようとしているが、時間がかかる	・学習を進めているが自己の課題に結びついていない ・わからないところを解決するための取り組みが不足している	・実習を進めていくにあたり、学習を進めていない ・自分のわからないところを認識していない	0
			・自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席している ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対処をしている	・自らの体調を整えて実習に臨んだが、遅刻・早退・欠席があった ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対処をしている		・自らの体調を整えて実習に臨んだが、2日以上遅刻・早退・欠席があった ・体調がすぐれない時に必要な対処ができない	2
			学習者としての自覚を持ち、以下の項目全てにおいて取り組むことができる □実習ノートの整理 □課題や提出物の期限を守る □常に身だしなみを整えている □教員・病棟スタッフとのコミュニケーション(態度・言葉遣い・表情) □学内実習 □学内ミーティング	以下の項目において、取り組むことが不十分で指導を受けることがある □実習ノートの整理 □課題や提出物の期限を守る □常に身だしなみを整えている □教員・病棟スタッフとのコミュニケーション(態度・言葉遣い・表情) □学内実習 □学内ミーティング		以下の項目が該当する □ノートの整理、課題や提出物の期限を複数回守れない □身だしなみが乱れており実習に適した状態に改善することができない □実習時間中の居眠り、ミーティングでの消極的態度、実習グループ全体の活動への不参加などが複数回ある □学習者として適切なコミュニケーション(姿勢・言葉遣い・表情)が取れないことが複数回ある □個人情報の管理ができない □当学院の倫理規定に反する行動がある	0

看護部長	印	看護師長	印	指導者	印	担当教員	印	合計
		出席すべき時間数	時間	出席時間数	時間	欠席時間数	時間	/100点